

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科目名	キャリアガイダンス (688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	実務経験内容					
e-mail						
連絡先	3号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	-	-	2		
科目のねらい・到達目標						
IT業界で仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやさしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教室	355	補助教員		
授業は、講義と実習を適宜とりまぜて行う。実習には、作文やSPIなど就職試験に直結したもの他、スピーチやディベートなど、基礎的なトレーニングも含まれる。また、履歴書等の作成なども行っていく。一方で、一般的なHRに相当するようなクラス全体としての取り組みも、この枠の中で行う。これは、コミュニケーションのトレーニングという意味を含んでのものである。						
教科書 教材	配布資料 Thanksドリル					

授業計画・内容	
<p>●授業時間：2単位時間/回</p> <p>【前期】</p> <p>1回目：働く事とは 2回目：研修会のありかた 3回目：ニュース分析 4～5回目：採用試験対策 6～7回目：企業説明会/ゲームCG関連企業の採用活動の流れ 8回目：求人票の読み方・就職活動先の企業選択 9回目：採用担当者の心理 10～11回目：採用試験対策 12～14回目：SPI/CAB/GAB 15～16回目：採用試験対策</p> <p>【後期】</p> <p>17回目：自己PR 18回目：エントリーシート 19回目：企業分析と自己分析 20回目：履歴書作成 21回目：就職活動に適した身だしなみ 22回目：就職活動用のスーツとカバン・靴 23～24回目：採用試験対策 25回目：公欠処理と報告書 26～27回目：ポートフォリオについて/作品提出時の注意 28回目：社会人としての心構え 29回目：採用試験対策 30～32回目：ビジネス会話/敬語/挨拶とおじぎ/名刺の取り扱い</p>	

評価コード	11
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科目名	応用情報技術 (863)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	実務経験内容					
e-mail	システムエンジニアとして、システム開発、維持・運用の業務に携わった。					
連絡先	3号館2階 職員室、1号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	-	-	8		
科目のねらい・到達目標						
スマートフォンなどのモバイル端末の普及に伴い、スマートフォンおよびタブレット端末用のアプリ開発の需要が増えてきました。また、組み込みシステムについても学ぶ。						
授業形態	実習	教室	176, 152	補助教員		
iOSアプリはMacを使って実習課題を制作する。AndroidアプリはWindowsを使って実習課題を制作する。課題の提出期限はその都度周知する。必須課題はすべて提出する。						
教科書 教材	詳細! SwiftUI iPhoneアプリ開発入門ノート [2021] iOS 15+Xcode 13対応 はじめてのAndroidプログラミング 第5版					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回 ※クラス内で2グループに分かれて受講し、前後期でグループを入れ替えて、iOSとAndroidを受講する。	
<p>【前期】</p> <p>[Swift (iOS)] (グループ1)</p> <p>1～3回 Macの基本操作</p> <p>4～7回 SwiftUIアプリを作って試す/Playgroundの活用</p> <p>8～12回 テキスト表示で学ぶ基本操作とレイアウト調整</p> <p>13～17回 イメージと図形の表示/配置/画像効果</p> <p>18～24回 リスト表示とナビゲーションリンク</p> <p>25～34回 ボタンやテキストフィールドなどユーザー入力で使う部品</p> <p>35～41回 アラート、アクション、モーダル、スクロール、タブの各種ビューを使う</p> <p>42～48回 バインディングとオブジェクトの共有</p> <p>49～53回 SwiftUIのMap()で地図表示</p> <p>54～58回 async/awaitを使った非同期処理</p> <p>59～64回 総合演習</p> <p>[Android] (グループ2)</p> <p>1～5回 開発環境を準備しよう</p> <p>6～9回 Android Studioを使ってみよう</p> <p>10～13回 簡単なアプリ作成</p> <p>14～16回 Kotlinを使ってみよう</p> <p>17～21回 じゃんけんアプリ作成</p> <p>22～26回 体型記録アプリ作成</p> <p>27～31回 フラグメントで動物図鑑作成</p> <p>32～37回 フラグメントを使ったスライドショーアプリ作成</p> <p>38～42回 カウントダウンタイマーの作成</p> <p>43～47回 カメラアプリの作成</p> <p>48～53回 スケジュールアプリの作成</p> <p>54～59回 アニメーションするツーリスト情報アプリの作成</p> <p>60～64回 総合演習</p> <p>【後期】</p> <p>[Swift (iOS)] (グループ2)</p> <p>[Android] (グループ1)</p> <p>内容は、前期と同じ</p>	
評価コード	13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス (授業計画書)

工業専門課程 情報総合学科

科目名	業務知識 (935)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	実務経験内容					
e-mail						
連絡先	3号館2階 講師室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	-	-	2		
科目のねらい・到達目標						
社会へ出ると、企業や業種特有の用語や言葉が日常的に飛び交い、覚えていく内容も多くなる。コンピューター・IT分野の学生は、卒業後には、様々な業種のシステム構築に携わることがあるため、より多くの企業用語を理解する必要がある。						
授業形態	講義	教室	355	補助教員		
テキストを使用し、業務に関する基本的な知識を身につける。また、演習を通して、実際に業務管理を模擬的に実施する。						
教科書 教 材	ITエンジニアのための【業務知識】がわかる本					

授業計画・内容

<p>●授業時間：2単位時間／回</p> <p>【前期】</p> <p>1～4回 会社経営、確認演習</p> <p>5～8回 財務会計、確認演習</p> <p>9～12回 販売管理、確認演習</p> <p>13～16回 物流・在庫管理、確認演習</p> <p>17～20回 生産管理、確認演習</p> <p>21～26回 人事管理、確認演習</p> <p>27～32回 総合演習</p>						
---	--	--	--	--	--	--

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 (100点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点 (出席および受講の状況) を20点の配点とする。成績の評定は、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。 ・ 追試験 (100点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。 (2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1点未満については切り上げ) を成績の評定とする。
------	---

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科目名	ビジネスシステム (708)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	実務経験内容					
e-mail						
連絡先	1号館2階職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	-	-	2		
科目のねらい・到達目標						
<p>そもそも会社とはどのようなものか、営利目的、社会貢献など、学生から社会人になるにあたって認識をもたなければいけないことが多くある。また、多くの学生が就職するIT業界は、時代の流れの中で起業することも可能な世界であり、ビジネスプランを立てて実際にビジネスとして立ち上げることも夢ではない。この科目では、会社の仕組みを学んだ後に、ビジネスプランの立て方を学ぶ。さらには、学生のアイデアをもとに実際にビジネスプランを立てる。「よく知っているビジネス」と「自分の持っている他の知識」に自分の「思い」や「アイデア」や「興味」を組み合わせることで、新しいビジネスアイデアにつなげる。</p>						
授業形態	実習	教室	171教室	補助教員		
<p>オンライン教材を使用し、様々なビジネスモデルについて紹介し、新たなビジネスモデルを作成できる知識を身に着ける。1つのビジネスモデルを基に、社会の仕組みなどを分析し、新しいビジネスモデルを検討する。その成果として、作成したビジネスモデルをコンテストに応募する。</p>						
教科書 教材	<p>オンライン教材 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）</p>					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回

【後期】

- 1～4回 「社会人基礎力」について学ぶ。
5～10回 会社の仕組みを学ぶ。
11～18回 ビジネスアイデアから事業化へのステップを学ぶ。
19～26回 ビジネスプランを立てる。
27～30回 ビジネスプランの発表、検証
31～32回 課題作成（ビジネスプランの再作成）

評価コード

13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報総合学科

科目名	卒業研究 (249)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	実務経験内容					
e-mail	システムエンジニアとして社内システムの構築・保守を担当した。					
連絡先	3号館2階 職員室					
開講期	1年次	2年次	3年次	4年次		
単位数	-	-	-	14		
科目のねらい・到達目標						
<p>5～6名でチームを構成する。各チームで研究テーマを定め、それに基づいて設計を行う。成果物の評価を目的として、適宜クラス内でプレゼンテーションを行い、クラスメイトや教員を交えたレビューを実施する。7月下旬に中間発表を実施する。中間発表では、卒業作品のプロトタイプを提示し、動作内容から意見を交わす。その結果を通じて、機能の見直しや拡張、手直しなどを行う。12月初旬に卒業研究プレ発表会を実施する。このプレ発表会では、教室を使用したブース形式で行い、在校生を中心に閲覧してもらう予定である。1月下旬には、本番である発表会を実施する。発表会では、内定先企業や高校の先生方にも参加していただく予定である。</p>						
授業形態	実習	教室	152,176,355	補助教員		
<p>班単位でシステムの設計/構築を行い適宜レビューを行う。その結果を元に修正を行う。上記の繰り返しにより授業は進行する。</p>						
教科書 教材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【前期】						
1～18回 チームメンバー及びテーマの決定						
19～36回 調査・分析・技術学習						
37～54回 各種設計						
55～100回 プロトタイプ作成						
101～112回 中間発表会実施（プロトタイプの提示）						
【後期】						
113～170回 システム修正						
171～180回 企業による検証						
181～220回 最終調整、発表準備						
221～224回 卒業研究発表会実施						

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。
------	---